

塾経営者 学校評議員に

魅力ある公立中目指して

さいたま市で学習塾を経営する高浜正伸さん（右）が四月から、草加市立松江中学校（鍋木良夫校長）に招かれ、学校評議員になった。学力向上のため、学習塾経営で培った高浜さんの知恵を借りようという狙い。公立中学校が塾経営者から指導方法を学ぶ。かつては考えられなかった試みだが、鍋木校長は「公立中学校も学習塾を積極的に見習う時代になった」と話す。私立中学校人気による公立中学校離れが言われる中、高浜さんは「公立中学校のために経験を生かしたい」と抱負を述べる。二十日に初めての評議員会議が開かれる。

（佐藤達哉）



昨年12月に社会人を講師にした松江中の「授業」で講演する高浜さん

「学習方法伝授したい」 草加市立松江中

評議員制度は学校運営や教育方針について校長の諮問に代えて助言や提案などを行う制度。校長に対して単独で意見を述べることもできる。県内では小中学校の約半数が導入している。

松江中では、昨年からは毎週一回、授業に代えて学習相談の時間を設け学力向上の取り組みを始めている。高浜さんの評議員参加は本年度の学力向上のための第一弾。

高浜さんと鍋木校長は、学習法を心理学の側面から学ぶ研究会のメンバー。「子どもたちに学ぶ楽しさを知ってもらおう」という高浜さんの指導方法に鍋木校長が共鳴し、評議員のメンバーに加わってもらった。

鍋木校長は「公立は黙っていても生徒が来る。しかし、学習塾は魅力ある授業をしないと子どもは来ない。そのよさは厳しい環境にいる高浜さんの授業を学びたい」と話す。

高浜さんは、東京大学大学院で学んだ後、九年前にさいたま

市内で塾を開校し、現在小中学生約七百人を教えている。座る姿勢、鉛筆の持ち方、ノートの取り方、暗記の方法など細かく学習方法を指導している。

「学ぶ楽しさを知ってもらうためには、洗練された学習方法が不可欠。それを怠れば子どもたちは来なくなる。私がやっていることは学習塾では当たり前のこと」と話す。

学習塾と比べると公立中学校は、学ぶ楽しさが実感できる学習方法の研究や子どもにも学習意欲を持たせる工夫が足りないという。その弱点を補うため、高浜さんは授業評価制度の導入を提言したいという。「評価することが授業の工夫につながり、レベルアップしていく」と高浜さん。

草加市は都内に隣接している利便性もあり、四年前には8%だった私立中学への進学も本年度は8%となり、私立中学校に進学する中学生が年々増えている。今回の試みも、このような事情を背景に公立中学離れを食い止める布石だという。

「地元の子にもは地元の中に行ってもらいたい。そのためには、私立中学に負けないように、生徒の学力向上に力を入れていかなくては」と鍋木校長は話す。

高浜さんは「公立中学校でなくても学べる制度は日本の教育の良さは。私も大学まで公立校なので、自分の経験が公立中学に生かせれば本望です」と、公立中学校の頑張りも期待する。